



ゆんたく 都島

2014 Vol.21

Contents

理事長 巻頭MESSAGE

特集1. さあ、認定こども園に向けてー

特集2. 都島友の会の乳児保育

report 都島友の会 法人内研修 各研修部会

都島児童デイサービス それいゆ／児童発達支援センター 都島こども園

比嘉正子地域貢献事業研修センター ひまわりネット／

友洲地域在宅サービスステーション ひまわり／特別養護老人ホーム ひまわりの郷

ゆんたくinformation

社会福祉法人 都島友の会

内閣府 『子ども・子育て支援新制度』が、 平成27年4月にスタートします。

社会福祉法人都島友の会 理事長 渡久地 歌子

日本の「子ども・子育て」をめぐる様々な課題を解決するために、平成24年8月、「子ども・子育て支援法」という法律ができました。そして来年平成27年4月には、この法律とそれに関連する法律に基づき、質の高い幼児期の学校教育・保育の総合的な提供、幼児期の教育・保育の質的改善、地域の子育て支援の量の拡充や質の向上等を進める「子ども・子育て支援新制度」がスタートします。

さる8月14日、大阪市ことも青少年局保育施策部企画課でこの新制度による認定子ども園への移行を希望する認可保育所に向けての説明会がありました。

法律自体は2年前にできたとは故我が国の保育・幼児教育制度の大改革ということで事務的には大変な苦勞を要しますが、既に私たちは平成27年4月に認定子ども園に移行する事を決定しています。

—と申しますのも、今回の「子ども・子育て支援新制度」の目的や理念は、私たち法人の原点、創設者の理念や法人創設の目的と合致するものであり、その意味でも認定子ども園への移行は、私たち自身の原点回帰と考えられるからです。

私たちは法人は昭和6年、青空幼稚園、後に都島幼稚園として出発しましたが、昭和20年に戦災の為やむなく閉園。しかし昭和24年に都島児童館という名前で作後の保育・幼児教育の場として再出発。昭和47年12月園舎を建替え、都島児童センターへと名称変更するまで、「私は保育部やったワ」「私は幼児部やったワ」と親子3代、4代にわたり語り継がれる。

「認定子ども園」への移行、「小1プロブレム」、5歳児の義務教育化…など、幼児、児童に関する改革は急ピッチに検討され、今後その改革や変化の波はさらに大きくなっていくように思われます。いま、保育と教育をめぐり、各園の実力が、真に問われようとしています。そしてその影響を一番受けるのは、子どもたち自身です。

まさにこれからが、私たちの正念場です。

数多くの卒園生の方々が今もおられます。当時の都島児童館は、保育部(長時間保育)幼児部(短時間保育)と制度上、2つに分かれていましたが、保育目標や保育内容は完全な一体化方式で行われていました。区別といえば保育時間の長・短、「保育に欠ける判断基準」の区分だけで、保育室は各年齢別に使用し、建物の中は全て共用でした。給食も完全給食で、当然、保育行事、園行事は一緒でした。

生前、創設者比嘉正子は、

「戦後、私は焼け跡になった何も無い場所から、寄る辺のない子どもたちを守るため、「子ども」の城」として都島児童館を作りましたが、児童福祉法が制定され、子どもたちは法的に守られるようになりました。しかし都島児童館にはまずは働く婦人の子どもを優先させなければなりません。地域の皆さんには、「当園にお子さまを入所させたい」と思っただけなら、皆さんの力で保育室を増設して下さいませんか、その方法は1口5円で幾口でもよいので、私に出資して下さい。足りない分は私が借金してきます。」と提案したところ、戦後の貧窮した生活の時ですのに、『出資しますから、早く建てて下さい』と70名以上の皆さんが賛成して下さい、瞬く間に『35万円』の資金ができました。後は私が5万円借り入れて、二つの保育室を増築し、70名以上の子どもたちが入所できるようになりました。社会事業を志す者はこのように地域社会の要望に応えるため、地域の人々と共に、地域のお力を借りながら、臨機応変、いつも柔軟な姿勢で事に当たらねばなりません。」と語って



いました。

都島児童館は子どものみならず、保護者の方々も、子育ての勉強会をはじめ、職業婦人として母として、あるいは妻としての研鑽研修を共にし、社会情勢等の勉強会もしてありました。お母さま方や保護者の方々が互いの時間を融通し、助け合いながら緊密な結びつきをもたれ、やがてそれが「母の会」として、後々都島友の会の発展に大きな貢献を果たすことにもつながっていきます。

しかし昭和40年、50年代になると保育所入所希望者が急増し、「保育に欠ける子ども」の人数が多くなったこと、また行政の理解が得られず保育を必要としても入所できない子どもたちが数多く生まれることにより、児童館は短時間保育を断念、長時間保育だけの場に変更を余儀なくされました。

園の前にお家があつても、遠くの幼稚園に行かざる得ない子どもたち…「今まで、お兄ちゃん、お姉ちゃんが行ってたのに……！」と地域、近隣からの不満も募り、時代の波で致し方ないこととはいえ、後味の悪さが残ってしまいました。

あれから四半世紀以上経ち、縦割り行政の壁として制度ごとにバラバラに存続していた旧来のものが、ようやく国としての統一な保育・教育制度の形が整い、内閣府に『子ども・子育て支援新制度』の本部が設置されることになったのです。

今回の制度改革による認定子ども園への移行は、都島友の会にとっては大きな歴史の回

帰であります。ただ認定子ども園への移行とはいっても、法人では当初から、保育園、幼稚園という枠組みや考え方を超えて、子どもたちの成長を尊び、保護者の方々と共に喜び、知(学ぶ意欲)徳(道徳心)体(体力向上)をバランスよく育んでいくことを第一と考え、仲間と共に、心も体も健やかに、よく見よく聞きよく考える子どもに育つ教育・保育を行って来ております。

今回、都島友の会では、都島児童センター、都島東保育園、都島友測保育園、都島桜宮保育園、成育保育園の5か園が総合的な保育、幼児教育のセンターとして、認定子ども園に移行しますが、当法人、各園の根幹は昔も今もそして今後も変わることはありません。

さて先般、政府の教育再生実行会議で、小学校入学以前の5歳児の義務教育化を検討課題とする提案がなされました。

…いったいなぜ…?

全ての子どもに質の高い幼児教育を、といわれる中で、深刻な「小1プロブレム」…小学校入学段階で授業が成り立たない、集団行動がとれない、授業中に座っておれない、騒ぐ、立ち歩く、先生の話を聞かない、落ち着かない、すぐ飽きる、我慢ができない…などなど、学校生活になじめない子どもが続出しているとメディアも大きく取り上げています。5歳児(幼児教育)の状態は園によってまちまちで、就学前の格差が「小1プロブレム」の原因と指摘され、それが今回の5歳児の義務教育化検討の要因か、とも思います。

安倍総理は第24回教育再生実行会議で「幼



都島桜宮保育園の子どもたち



A 大きく強く豊かな心で、 みんながチャレンジできるように

都島東保育園

施設長 土居 純子

平成25年度 文化のつどい



都島東保育園では、子どもたちの強く大きな心の育ちを大切にした教育・保育を行っています。年長児は、運動会で恒例種目の「180センチの高さの壁のぼり」に挑戦、全身の力でよじ登り、ジャンプする姿を披露しています。



恒例の壁のぼり



また、都島友の会創立80周年を機に、大太鼓、中太鼓、小太鼓、トリオ、シンバル等を使ったマーチングも取り入れています。新しいことに挑戦する力や、豊かな感性、仲間と調和する心を育てています。今年も、11月15日(土)に都島区民センターで行われる大阪府コミュニティ協会主催の「文化のつどい」に出演し、カラーガードを加えたパワーアップしたマーチングを披露します。



さあ、 認定こども園に向けてー。

Q 各園におたずねします。

今までもそしてこれからも、子どもたち一人ひとりのために、大切に、力を入れて取り組んでいる教育・保育とは何ですか？

A 心の育ちを大切に…

都島桜宮保育園では、子どもたち一人ひとりの豊かな心の育ちを大切にした教育・保育を行っています。豊かな心の育ちは、子どもたちが自ら「感じる・想像する・表現する」ことで育まれていくものです。子どもたちの心が動く時、想像力や創造力、豊富な知識、さらには豊かな感性が芽を伸ばしていくのだと思います。

絵画活動



都島桜宮保育園

施設長 松島 千賀子

絵本



大人が見て「スゴイ」のではなく、子どもが自信を持って「スゴイ」と胸を張れる豊かな表現力を育てています。

絵を楽しむ、内容を楽しむ、感動する…語彙力はもちろん、自分だけでなく他者の気持ちも理解できる豊かな人格形成につながります。(月に一度、親子で楽しんで頂く「絵本ひろば」も開催しています)

都島児童センター

施設長 山口 涼子



想像力と創造力をかきたてる！
体を動かすことが好きになる！

室内大型木製遊具

人としての本能や想像力は自発的な参加、積極的なかわり成長します。『探す』『発見』『行動』することで人やモノとのつながりを生み、成長が始まります。木のぬくもりに包まれながら、全身をフルに使って遊ぶことで、楽しみながら筋力、バランスなどの運動機能が育ちます。『できた!!』の達成感が次への自信に！。運動能力の向上は、幼児期の遊びから！

A 歴史と伝統をつなぎつないで…

古き良き伝統・伝承、受け継がれてきた思いと経験を生かし、子どもたちと共に成長し、これからも伝え続けていこうと思います。



日本舞踊

都島児童センターでは、昭和十五年以來、4歳児の冬から『日本舞踊』をしています。日舞の先生の指導で、普段の「動」とは違った「静」のゆったりとした動きを体験します。日本舞踊独特の「しな」や指先、足先までを意識して行い、そのなかで『挨拶の仕方』や『正しい姿勢』も身につけていきます。



クラブ活動

卒園しても通ってくる子どもたちもたくさんいます。職員も積極的に、クラブの先生に指導方法などを教えて頂き、指導者としてのスキルアップも図っています。
・習字・モダンバレエ・ピアノ
・英語・絵画

「習い事がしたくても連れていけない」という保護者の方の思い。それなら「園に居ながらにして、通えたら」

沖繩から

渡保育園ニュース

東里 正江

渡保育園の前の下水道工事現場で、69年前の沖縄戦時に使用されたアメリカ製の50キロ爆弾が発見され、周辺住人など1100人余りが避難対象になりました。渡保育園でもお泊り保育が延期、不発弾処理の日は休園になるなど影響を受けました。県によると沖縄にある不発弾は推定でまだ2100t程度も残っているとのことです。



園の前で不発弾発見

職員の努力で、美観を損なわずに…



理事長発案の、湧水を利用した当保育園自慢の美しい池（エコ噴水）が道路工事の影響で枯れてしまいました。そこで職員がアイデアをめぐらせ、しばらくは「自愛の面影」の周りを花で囲って景観を守っています。

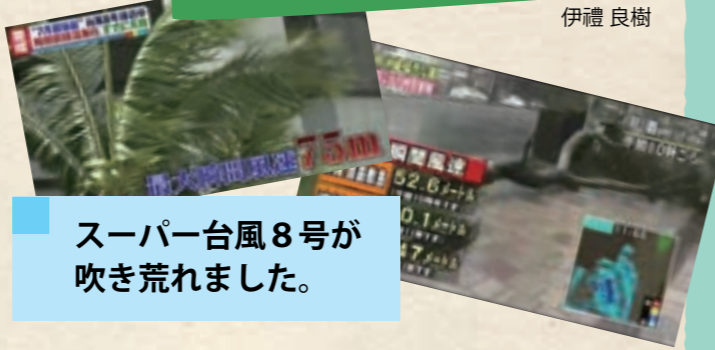
琉球王朝以来の歴史的な街並みを大切にするために…



渡保育園のある首里金城地区は琉球王朝以来の石畳道や石垣など多くの文化財を残している歴史的なまちなみの地区です。今回、歴史的風土の保全と生活基盤整備を図る那覇市の細街路整備事業で、園庭が少し削られることになりました。工事期間中は安全面に配慮しながら、子どもたちにストレスのないよう園外保育を増やしていきたいと思っています。

松島保育園ニュース

伊禮 良樹



スーパー台風8号が吹き荒れました。

台風にはある程度慣れている私たちですが、今回のスーパー台風8号は最大瞬間風速53m、10万世帯以上が停電、那覇は1時間に60ミリ、24時間雨量が150ミリを超えるなど今までの台風とは訳が違い、私たちも緊張してしまいました。幸い保育園には影響はありませんでしたが、車の転倒、家屋の倒壊と大きな被害が出ました。今回の広島市の砂災害など、ここしばらく天候異変が続いているので、緊急時のリスクマネジメントには怠りない準備が必要だと考えています。

ひさしぶりの父親座談会トークで盛り上がりました。



「家事は手伝っていますか？」
「料理や洗濯などをしています」
「休みの日は、こどもと遊ぶようにしています」

父親だからこそその悩み、ホンネ？…深く話せなかったけれど、お父さんたちの家庭での努力ぶり!、よく分かりました。

第13回父親座談会を開催しました。今回は5名のお父さんの参加がありました。最初は緊張していましたが時間が経つとなごやかな雰囲気です。子育てや家庭でのお話も…。少しでも様子を報告しますね。

都島友渚保育園

施設長 池上ひとみ

A 心をひとつに取り組む力



音楽リズム

3歳児から音楽リズムが始まります。3歳児は打楽器を使ったり、4歳児では鍵盤ハーモニカなど様々な楽器で、5歳児になるとマーチングや発表会に向けて和太鼓や合奏の取り組みを始めます。5歳児の発表会では合奏・和太鼓だけでなく、カスタネットだけで曲に合わせてリズム打ちをします。難しい細かいリズムをみんなで揃えることや強弱も意識しながら演奏することで、みんなで力を合わせて一つのことをやり遂げる大切さを知っていきます。

琉球舞踊 四つ竹



5歳児の発表会では『琉球舞踊 四つ竹』というプログラムがあります。四つ竹（楽器）を持ち、琉球紅型の着物、花笠を頭にかぶり踊ります。元氣一杯に踊るのではなく、『ゆつくり、やさしく…』と子どもたちに伝えていくうちに、子どもたちも気持ちと身体で覚えていき、見違えるように美しく変わってきます。頭を動かさず一点に集中し、凛とした姿勢で本番では『華麗で優雅な舞』を披露します。

成育保育園

施設長 白井 潤子

A 『きらきら★をさがそう』

キラッ★ 興味津々の目、流れる汗、友だちへの優しさ、何かに熱中する姿、何気ない言葉…



異年齢児交流

園庭で遊びながら、0歳児クラスの様子を見ることができ、かわいい赤ちゃんの姿に思わず駆け寄ってしまう子どもたち。お兄ちゃん、お姉ちゃんが来ると赤ちゃんも大喜びです。どのクラスも日常的に交流しているため、保育園全体が兄弟姉妹のように仲良しです。

全身を使って力一杯演奏し、友だちと息を合わせることで、和太鼓の迫力ある音が体や心に響き渡ります。

和太鼓

4、5歳児は縦割りクラスで保育をしています。ここにのりをつけるよと困っている様子を見て5歳児が優しく教えています。嬉しかった体験が自然な形で引き継がれ、あたたかい関係になっています。



都島友乳児保育センター

西田直未

保護者の皆様の一歩の応援団として

病後児ルーム



都島友乳児保育センター 2F には、病気の回復期のお子さんをお預かりする『病後児ルームひまわり』があります。心身の安静が保たれ、子どもの負担を軽くして病状を長引かせずにすむということより、法人内外問わずご利用いただいています。



クラスの垣根がないワンフロアの保育室

乳児期は、人としての大切な土台作りの時期です。都島友乳児保育センターでは、子どもたちが安心して過ごせるよう、安全で衛生的な環境づくりはもちろん、家庭的な雰囲気も大切にしています。0〜2歳児の保育室は、クラスの垣根なく職員みんなで子どもたちの成長を見守っています。また、保育園だけでなく、ご家庭の様子などをお聞きしながら、細やかな対応を心がけています。子どもたちだけでなく、保護者の皆様の一歩の応援団でありたいと考えています。

子育て支援



お子さんを通じて、保護者の皆さんや保育士との交流の場として、いろいろな企画を考え『とも☆パラ』という名前で開催しています。

都島第二乳児保育センター

岩本真弓

様々な人々との日々の交流を大切に



広い屋上では季節の草花が咲く花壇や夏野菜やさつまいろを栽培し、子どもたちも水やりをしています。5月には「大きなこのぼり」、夏には「プールあそび」と様々な姿を見せてくれます。

都島第二乳児保育センターは1歳児、2歳児の保育園です。隣接する都島乳児保育センターの子どもたちが進級してくるので、日々交流を密に生活しています。3歳児になると都島児童センターへ進級しますが、毎年の運動会では2歳児から5歳児まで、グラウンドで走ったり踊ったりと共に参加します。また遠足や一年の成長を保護者の方に見て頂く発表会など、様々な行事も一緒に進んでいます。



都島乳児保育センター

杉本和美

0歳児からの途中受け入れを積極的に

都島乳児保育センターは、0歳児、1歳児の保育園です。0・1歳児の成長や発達に合わせたクラス編成を行い、一人ひとりに合わせた保育を大切にしています。同じ法人内でも、0歳児の途中入所を積極的に受け入れていては他にはなく、当園の特色の一つです。一斉入所は4月ですが、お母さん方の育休明けの時期はさまざまで、途中入所受け入れはお母さん方の育休明け復帰に大きな役割を果たしていることを子どもが入所するたびにあらためて感じます。保護者の方が初めての保育園に不安をもつことなく、安心して子どもを預けてもらうことができるように、安心安全な環境の中、保護者の方々とのコミュニケーションを密にししながら、日々丁寧な保育で見守り、子どもたちの成長を育んでいきたいです。



もっとこまやかに、もっと丁寧に。乳児保育のエキスパートとして一。



「都島乳児保育センター」「都島第二乳児保育センター」「都島友乳児保育センター」は、乳児保育専門施設として、年齢や成長に合わせた丁寧な保育が特徴です。都島乳児保育センターは0歳児1歳児、2歳児になると都島第二乳児保育センターへ、3歳児からは都島児童センターへ進級します。また都島友乳児保育センターは0歳児から2歳児、それからは都島友保育園が子どもたちをしっかりと引き継ぎます。0歳児だった子どもが修了式を迎えるその日まで、都島友の会では各施設が密接に連携、交流し、子どもたち一人ひとりの発育に合わせ、こまやかに丁寧な保育を行うことで、子どもたちの成長をしっかりと見守ってまいります。



走ったり、跳んだり動きが活発になってくる時期の子どもたち。言葉も増え身の回りのことにも興味を持って、自分でしようとする姿が見られる中、周囲の人たちのすることも見てまねるようになるので、日々の生活の一つひとつ丁寧に関わっています。



保護者も子どもたちも職員も毎日楽しく過ごせるよう様々な工夫を凝らして職員一同力を合わせて連携を取りながら保育しています。

リスクマネジメント部会

都島桜高保育園
李 美和



これからも子どもたちの安全を守り、子どもたちの「生きる力」を育み続けられるよう取り組んでいきたいと思っております。

日頃の保育・介護の現場において「ヒヤリ」「ハット」することは毎日のように発生します。特に幼い子どもたちの行動は大人の予想をはるかに超える思いがけないことの連続です。子どもが発達する過程において必要なような経験も、命にかかわり、大きな事故につながる可能性があるということを念頭に、法人ではリスクマネジメント部会の活動を行っています。

法人内全園の集計を様々な視点からグラフにしてまとめ
「分析→要因発見→対応の評価↓検討↓対策（課題）」を各園に送付し、現場にフィードバックされるよう取り組んでいます。

また、定期的な事例報告研修会を行うなど職員全体の意識を高める活動も行っています。

子育て支援部会



子育て支援部会では法人内の各園が行っている子育て支援活動の内容やねらい、目標などを集約し、統一的な取り組みが行えるようにすることをはじめ、各保育園の園庭開放で、地域の子育て家庭の親子が気軽につどい、親しく交流を図れるようなさまざまな活動を行っています。

また地域出向という形で、地域子育て支援センター『のびのび』の担当者が大阪北ブロック内の地域支援活動のサポートや育児相談等を行なっています。

都島区内の他の法人の子育て支援の動きとも連携し、代表が各会議に参加、大阪市や区内でいっそう子育て支援のネットワークを広げられるように他機関との情報交換を行っています。

都島友洲保育園 吉本 希

食育部会

保育士同士で食べさせ合い飲ませ合いの体験



ゼリーやお茶を使って食べさせ合い飲ませ合いの体験をしました。子どもの立場になってみることで、スプーンの入れる位置や量、コップで飲む時の角度など、子どもにとっての食べやすさ飲みやすさの違いを、改めて体験しました。



食は、子どもの成長や生活の基礎となり、食材に触れ、五感で感じる色々な経験を通して、『食べるって楽しい』につながっていく、子どもにとつての楽しい食事を大切にしています。各園、食育年間計画をたて、食育行事・野菜の栽培や収穫・クッキングなど様々な食育の取り組みを行っています。

食育部会では、管理栄養士の話を聞き学んだり、日々の食育の取り組み内容を報告しあい、食事のマナー、アレルギー対応、好き嫌いをなくす工夫、野菜栽培の育て方、おすすめクッキングなど意見交換しては、日々の保育で実践しています。

都島乳児保育センター 杉本和美

障がい児部会

平成25年度
○7月25日

『発達の評価について』

講師 都島こども園 心理士 角森倫子

～発達検査の方法や内容を学ぶ～

○11月27日

『大阪市発達障がい支援センターエルム大阪事業内容』

講師 エルム大阪 地域サポートコーチ・言語聴覚士 藤川典子

～エルム大阪が行っている

巡回支援指導について具体的な事例をもとに子どもたちの特性や支援内容を学ぶ～

○1月29日

『保育所における個別支援の取り組みについて』

講師 大阪市こども青少年局子育て支援部保育運営課 係長 伊達裕佳子

～市立保育所（モテル園）での支援の取り組みや

個別指導計画の作成について学ぶ～

～市立保育所（モテル園）での支援の取り組みや



支援が必要な子どもにも適切な援助を提供し、すべての子どもが互いに育ち合えるような保育技術の向上に向けて、様々な角度から障がい児保育について学んでいきます。日々保育する中で障がい児への接し方など疑問や悩みを講師の先生方と話し合うことで、よりよい保育へとつなげていきます。

Report

社会福祉法人 都島友の会

法人内研修 各研修部会

今回は、法人内にある5つの各研修部会が日頃に行っている活動を紹介いたします。

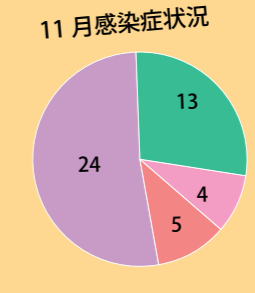
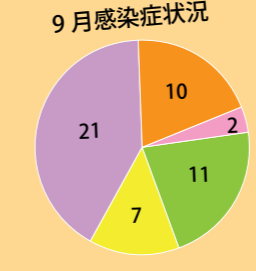
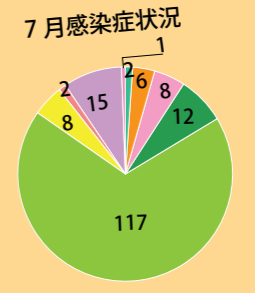
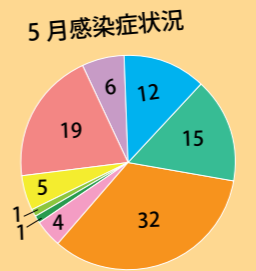
保健衛生部会

職員の健康管理としては、毎年健康診断を行い、疾病の予防と早期発見ができるように支援しています。

他には、各園に看護師が出向き、「予防接種」「けがの対応」「アレルギー」「発熱とけいれん時の対応」「エビペン使用のデモンストレーション」など保健に関する研修を職員に向けて行っています。

以上のような活動を行っていますが、月に1回、看護師間の連携を深めるために、「保健衛生部会」を開き、保健に関する情報や問題を共有し、統一を図るようになっています。今後さらに看護師間で協力し、保育園の保健活動を充実していきたいと思っています。

都島友洲保育園分園 江藤治世



● インフルエンザ ● 麻疹 ● 風疹 ● 水痘 ● 流行性耳下腺炎
● 流行性結膜炎 ● プール熱 ● 溶連菌感染症 ● ヘルパンギーナ
● 手足口病 ● とびひ ● 感染性胃腸炎 ● その他

保健衛生部会は、担当の園長・主任・各園の看護師で構成され、保育園の子どもたちと職員の健康管理を行っています。具体的には、保育園でのけがや病気の対応・健康診断・感染症対策を行ったり、毎月ほけんだよりを発行し、保護者への啓もう活動をしています。また保育園での感染症状況を把握するため、各園で感染症サーベイランスを入力したものをまとめて、毎月各園に報告しています。

Vol.18 Vol.20で保育所等訪問支援事業、相談支援事業の紹介をしましたが、今回は3つの事業の最終回「児童発達支援事業(通所)」について紹介したいと思います。



児童発達支援センター 都島こども園

櫻井 雅子

児童発達支援事業(通所) ってなあに?



発達に遅れのある子どもたち、障がいを持った子どもたちが身近な地域で支援を受け、どの障がいにも対応できるようにすることともに、継続して障がい特性に応じた専門的な支援が提供されるように平成24年に整備された事業の一つです。

都島こども園の通園は障がいをお持ちの2歳児～5歳児のお子様を対象となります。子ども4人に対し大人が1人という大人の多い環境の中で、子どもの発するサインに適切に対応してもらうことで、自分にはコミュニケーションを始める力があると気づくことから始まり、次にコミュニケーションの楽しさを知り、その先には自分の気持ちを伝えるために言葉の獲得が必要になってきます。ここではコミュニケーションに苦手さを持つお子様が大人から認められ、自信をつけられるような環境の中で療育を進めています。



「就園児療育あーす」

幼稚園、保育園に通われている年長児で知的な遅れを伴わない障害をお持ちのお子さん等を対象にした通園も月2回実施しています。4名までの少人数のグループまたは個別で主に順番を守る事や自分の気持ちをコントロールする練習に取り組んでいます。

4～5歳になると仲のよい特定の友達ができたり、友達同士で内緒の話をしたりして、子ども同士の世界が広がります。それと同時に大きな集団でも過ごせるようになり、2～3歳では見られなかった行動が見られるようになります。その中で、よく聞かれる気になる行動をいくつか挙げてみました。



A 4歳といえば集団の中でも自分ですることが増えてきます。先生の話ややるべきことを理解する力だけでなく、同時にいくつかの作業に取り組み力も必要になってきます。後者の力が弱いおひさまは「家庭ではできるけれど保育園など集団の中では集中できない」といった様子が聞かれます。こういったことは子ども自身も思うようにはいかないと感じている事が多いので、静かな環境を整え最後まで取り組めるようにしてあげるのがよいでしょう。

Q

4歳の男の子です。遊びも身の周りの事も声をかけると始めるもの、最後までせず中途半端になってしまいます。1つの事になかなか集中できないのですが、どうしてでしょうか？



4～5歳児の気になる行動 -Q&A-

A

おひさまがうまく気持ちを伝えられない、場に適さない行動をすることで悩んでおられるようですね。こういったときに「だめですよ」と怒っても、感情が昂ぶっていてあまり耳に届いていません。まずは穏やかな声で「どうしたの」と声をかけ、おひさまが落ち着くのを待つてみてはどうでしょうか。気持ちをうまく伝えられずおひさまもつらいのかもしれない。落ち着いた言葉でなんと伝えようといのかを大人と一緒に考えてみるのも一つです。

Q

もうすぐ5歳になります。仲のよい友達と遊んでいる時、楽しかったら思い通りにならなかったらすぐに叩いたり蹴ったりすることがあります。どうしたらよいでしょうか？

静かな環境を整えたり、繰り返し正しい言葉の使い方を伝えたりも、なかなか変化がみられずおひさま・お母さんの悩みは深まる一方・・・そんな時は、こども相談センターや地域の保健センターやお近くの専門機関に相談してみましょう。

角森倫子



都島児童デイサービス soleil

向井 秀幸



児童発達支援

あっぷる

現在、幼稚園や保育園に通いながらあっぷるを利用されている方も多くいらっしゃいます。

「児童発達支援 あっぷる」は、親子療育を行っています。親子療育を通して、おひさまとの接し方を学んでもらう機会をもち、おひさまと一緒に楽しく遊ぶことで、対人関係の基礎となる親子関係を深めることをねらいとしています。

室内あそびはもちろん、ボールプールや体育遊具を使ったミニサーキット、地域の公園や法人内の保育園の園庭での戸外あそびなどを楽しんでいます。



放課後等デイサービス

れいんぼー

小学校へあがっても継続的な支援が可能です。



「放課後デイサービス れいんぼー」は発達障がいと診断されたおひさまを中心に、1人ひとりの成長・発育を把握し、集団生活に適応することができるように、1人1時間の学習支援を柱とした療育を行っています。学習の取り組みが終われば、それぞれが自分の好きな余暇活動を楽しむ時間を設けています。

利用申込および見学は随時受付中です！！

住所：大阪市都島区都島本通3-25-7-8
電話：06-6924-9991
<http://miyakojima.or.jp/soleil/>



スタートしたばかりですが、子どもたちの笑顔であふれ、たくさんの「楽しい!」「できた!」という経験を積み重ねられる施設を目指していきます。



しんどくなったら、先ずはお気軽に。

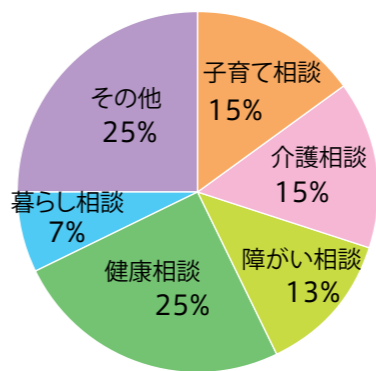
『ゆんたサロン』は いつだって開店中です。



「制度の枠組みからこぼれ落ちた人々を救わなければならない」という法人の創設者の志を継承し始まった、子育て・障がい・介護・日常生活なんでも相談室『ひまわりネット』。さまざまな問題を抱え苦しんでいる人々への支援を続けて3年が経とうとしています。主な相談件数としては、一昨年は111件、昨年は61件、今年度上半期（4月～8月）については、40件になりました。



主な相談内容



(平成26年8月31日現在)

子育てに疲れた親、不登校になった子ども、貧困による生活の不安、老老介護の現実、精神疾患による将来の不安・・・等、さまざまな問題を抱えて訪ねてこられます。私たちと話すうちに「少し、気持ちが落ち着いた」と言ってくれる人がいます。

「今日はしんどいので寄ってみました」と言って、訪ねてきてくれる人がいます。おぼちゃんたちの雑談で「ちょっと楽になったワ」



とお呼びがかかれば、どこにだってお伺いします。しんどくなったら、先ずは気軽にセンターを覗いてみてください。1階『ゆんたサロン』はいつだって開店中です。

認知症予防

コミュニケーションの取り組み

現在、デイサービスひまわりの利用登録人数は80名を超え、一日の利用者数も平均30名以上とスタッフも大忙しの状態、一日が「アツ」と言う間に終わってしまいます。一日は朝の送迎から始まり、健康チェック／入浴／昼食／レクリエーション／おやつ／夕刻の送迎となります。

現在そのような中で、私たちは利用者の方々の認知症予防のための脳活性化プログラムに力を入れ、入浴までの間、簡単な計算式や漢字問題・間違えさがし等、脳トレーニングプリントを行っています。なかには、「もっと難問をお願いします。」と言われる方もおられて、日々出題を考えるのも大変です。少し手を抜くと「これ前にやったー」と御叱りを受けることも。皆さんが真剣に取り組みされている姿を拝見すると苦労が報われます。若いスタッフと共に問題を考えますが、歴史や漢字問題などは逆に利用者の方から教えてもらうこともあり、コミュニケーションツールとして非常に役立っています。

プリントは採点してその日に持って帰っていただくのですが、中にはユニークな珍解答が出てその方の個性や歴史を感じ共感さえ覚えます。脳トレプリントは、普段活用されていない脳の部位が刺激され、また考えることにより脳の活性化がなされ認知症予防には最適です。

コミュニケーションは、社会生活を営むうえで、欠く事の出来ない大切な手段ですが、高齢者の皆さんにとっても同じことです。

いつも同じ事を喋るのでウンザリするとか、もの静かな人だから喋り相手になりづらいと思われれるのでなく、どんな些細な事でも話し相手になつてあげることが一番大切なことだと思います。ひまわりでは、月に一度ではありますが、「傾聴」ボランティアグループ3～4人の方々が来られ、利用者様のお話し相手となる活動を続けて頂いています。身体を動かすことと同様に脳のトレーニングとコミュニケーションは高齢者の人々にとって生きがいある生活を送っていただく大切な日課のひとつです。



ネットのきもち 5

映画が好きで映画館によく足を運ぶ。先日、マゴと一緒に行くことに。上映までのひととき、小学生の頃に観たティズニー映画『眠れる森の美女』のことを思い出していた。娯楽の少なかったあの時代、生まれて初めて見た総天然色映画笑。大画面に映し出される映像はまさに夢の世界であった。それに比べ今の子どもたちにとっての感動は3DやらCG技術を駆使した作品なのだろうなあ・・・とほんやり考えながら、ふとマゴたちの方に目をやると、ポップコーンの入った容器を椅子の間にセットし、「一人はジュースを一気に飲みしている。あああ〜とあきれ返っていると、そのマゴが「ハイ！これパンチャン(私)のん〜」といって、今飲み干した紙コップにポップコーンを山盛り入れ、私の前に差し出してくれた。三人連れで端の席に座っている私からはポップコーンのカップには手が届かない。そこでこういうことに・・・。パンチャンはマゴの不躰を不快に思っていたにもかかわらず、踊りだしそうになる気持ちを心の中にしまい込んだのだった姿。

「思い込み」といえば、邪悪な魔法使いのおばあさんだとばかり思っていたのが・・・？ 映画の内容はともかく、ものごと、視点をちょっと変えてみることにしても大事なことがあるかもしれない。

今夏、私はステキな本と出会った。「驚きの介護民俗学」。昨年知人から紹介されていたにもかかわらず、聞き慣れない「介護民俗学」と言う難しい題名について後回しにしていた本である。それが、最近新聞で大きく取り上げられることに。「気鋭の民俗学者が大学を辞め、介護職員として働き出した。お年寄りのことは丁寧な「聞き書き」する独特の介護を続けておられる」の見出し記事に惹きつけられ、一気にページを繰っていった。

「話を聞くことって介護なの？」同僚からは批判されていた。「介護とは食事、排泄、入浴の3大介護の技術を効率よく提供するサービス」。実際多くの現場ではそう割り切っている。でないとならぬから。でも数をこなすだけの現場は、やがて疲弊する。夢を持って働き始めた人ほど幻滅して辞めていくことになる・・・。「介護はケアをする側とされる側という関係になる。する側の方が優位に立っている。ところが聞き書きを持ち込むと、聞く側、話す側と言う新しい関係が生まれる。関係は時に対等になり、逆転もする。人と人との信頼関係が築かれていく実感がある。それが結果的にケアもよくしていくことになる」今を生きる利用者たちの語ってくれるそれぞれ魅力的な人生に、私は生きるということに奥深さや不思議さを教えられている。何よりもそうして私を育ててくれた利用者たちに感謝したい・・・。

この本に出合えてよかった。私は今、しみじみとそう思っている。

(地域貢献支援員 村上明子)

私たちの行っている「社会貢献事業」とは...



社会福祉法人は、「社会福祉法人しか出来ないことは何なのか？」を常に自らに問いかけ、社会に向けてその存在意義を示して頂かなければならない立場にあります。そこで今回はその取り組みの一つである『社会貢献事業』について紹介したいと思います。

「社会貢献事業」とは生活困窮などで問題を抱えている方の中でも制度や社会の狭間におられる方に対して支援を行うっていく制度です。具体的には老人施設部会の「コミュニケーションシャルワーカー」と大阪府社協の「社会貢献支援員」が、支援の必要な方を訪問し、状況を把握し、問題解決に向けての方策を共に考え、救済を図るという総合相談の取り組みです。このコミュニケーションシャルワーカーというのが、「ひまわりの郷」を含めた各老人福祉施設及び関係機関の担当となります。急迫した状況には老人施設部会等が拠出した「社会貢献基金」を活用し現物給付を行います。その際の決裁権は各施設に委ねられており、非常に迅速に対応することができると特徴でもあります。

ひまわりの郷では今年度に入ってからすでに3件の支援を行っており、徐々にではありますが社会貢献事業を通しての地域貢献活動が実を結んできているように感じます。これからも社会貢献事業の更なる周知徹底を行い地域福祉に貢献できるよう、ひいては世の中に社会福祉法人の意義を示せるよう邁進したいと思えます。

寄付

ひまわりの郷の開設以来、平成26年4月まで12年間入居されておられた白井康雄様のご遺族から、1892万円という多額のご寄付を賜りました。ご厚意に深く感謝いたします。白井様のご遺志に沿い、ひまわりの郷ご利用の皆様、施設の充実に使わせていただきます。



ひまわり会バレーボール部 今年も優勝。 大会2連覇、達成です!!

都島こども園 櫻井 雅子



ゆんたくVOL.19でも紹介しましたが、当法人には職員で構成したバレーボールチームがあります。今年も8月16日(土)、第39回大阪民間社会福祉従事者共済会バレーボール大会が開催され、当法人は「ひまわり会MIYAKO」「ひまわり会S-TAMA」の2チームが参加、頂点を目指しました！

職員メンバーは仕事が終わった後にもうひと頑張り、日々練習に励み、地域の方々からバレーのチームに練習試合をしてもらうこともありました。おかげさまで2連覇することが出来ました。バレーボールは何よりもチームワークが大切。アタックを打たれても、レシーブでうまくセッターにボールを返せなくても、次につないでくれる仲間がいて、粘り強くラリーが続く・そんな姿はチームワークの良さを感じさせるものでした。

理事長、局長をはじめ、多くの職員の応援もあり、みんなで手にした金メダルです。応援してくださいました方々にお礼申し上げますと共に、さらに来年、3連覇を目指して頑張りしたいと思います。

近畿青年経営者会研修に参加

本部事務局 竹中友樹

さる7月8日、京都で近畿青年経営者会研修が行われ、本部から計3名が参加しました。研修のテーマは、社会福祉法人堺暁福祉会理事宮田裕司先生による「社会福祉法人を取り巻く現状と必要な取り組みについて」。

戦後日本の社会福祉事業に大きな意義をもった社会福祉法人ですが、今日では補助金や税制優遇、イコールフィッティングの確立(社会福祉法人の税制上の優遇措置をとりはらい営利団体との競争条件を平等化すること)などメディアを中心に厳しい目が向けられています。そのような状況下で、情報公開や事業経営の透明性の確保、制度化されていない更なる援助ニーズの掘り起こしなど、今後取り組まなければならない課題についてお話をいただきました。多くの課題がありますが、社会福祉法人だからこそできる安定した福祉サービスを継続的に行うことが我々の使命であることを改めて再認識した一日でした。

今号の表紙



- 1 成育保育園
 - 2 都島第二乳児保育センター
 - 3 沖繩松島保育園
 - 4 都島児童デイサービス
 - 5 都島東保育園
- 各園の子どもたち

編集後記

ようやく秋の気配を感じるようになりました。食欲の秋、スポーツの秋、読書の秋：皆様どんな秋を過ごされるのでしょうか？秋と言えば運動会！10月は友の会 保育園の運動会ラッシュがやってきます。子どもたちははじける笑顔に負けないとびっきりの笑顔で皆様のご来園をお待ちしています。ぜひぜひあそびにいらしてくださいね。

都島桜宮保育園
李 美和

